

ほんかんだい しつ うちゅう かち
 本館第5室：こころの宇宙——価値

ヒンドゥーの神がみ：シヴァ

ヒンドゥー教には、実に多彩な神様がいます。その中でも、現在、ヒンドゥー教を信仰する人びとの間で特に人気の高い神のひとりが、「シヴァ」です。シヴァは、宇宙の破壊をつかさどる神で、ブラフマー（宇宙の創造をつかさどる）、ヴィシュヌ（宇宙の維持をつかさどる）とともに、ヒンドゥー教の三大神と呼ばれています。シヴァは、両目の間に第三の目を持っており、彼が怒るときには激しい炎が出て、すべてを焼き尽くすとされています。

シヴァはまた、108種の舞踊を演じる「舞踊の神」ともいわれ、宇宙にあまねく満ちている力を示すナタラージャ（舞踏の王）の姿として表現されています。神話によると、シヴァと論争した異教徒が怒って、虎、蛇、小人（無知、暗黒の象徴。アパスマーラ）を作り、つぎつぎと攻撃してきました。しかし、シヴァは笑いながら虎の皮をはいで身につけ、蛇を首に巻き、小人を踏みつけて踊り続けたといいます。この神話をもとにナタラージャの像が作られています。

シヴァは破壊の神とされていますが、破壊した世界を再建する創造力も持つ神です。宇宙は破壊されることによって、創造、維持というサイクルを繰り返します。ナタラージャの像は、シヴァのこうした宇宙的な活力を表現したもののなのです。



ほんかんだい しつ うちゅう かち
 本館第5室：こころの宇宙——価値

ヒンドウーの神がみ：ガネーシャ

ゾウの頭を持つガネーシャは、シヴァとその妃^{きさき}であるパールヴァティの息子です。どうしてガネーシャはゾウの頭をしているのでしょうか？その理由は次の通りです。

パールヴァティは、夫の留守中に自分の体の垢^{あか}を集めて人形を作り、それに生命を吹き込みました。こうして生まれた息子に彼女は満足し、用事をいいつけました。それは彼女の入浴中、家に誰も入れないように見張りをすることでした。そこへシヴァが帰ってきましたが、ガネーシャは父と知らず、母の言いつけどおりにシヴァを中に入れようとしました。シヴァは怒ってガネーシャの首をはねてしまいます。

パールヴァティは息子の死を^{なげ}嘆き悲しみました。シヴァは^{あわ}哀れんで、この息子を生き返らせることにし、部下に命じてガネーシャの頭を投げ捨てた方向に探しに行かせました。しかし見つけることができず、最初に出会った動物、つまりゾウの頭を持って帰ってきたので、それをガネーシャの頭として取り付け、復活させたのです。

現在ガネーシャは、^{しょうがい}障害を取り除き、成功と幸運をもたらしてくれる^{げんせりやく}現世利益の神として、また、^{はんえい}富と繁栄の神として信仰を集めています。

